

前奏: 「天にいます我らの父よ」 (J. プレトリウス)

招詞: 今や、キリスト・イエスに結ばれている者は、罪に定められることはありません。(ロマ8:1)

讚美歌 18「心を高くあげよう」

罪の告白・赦し

聖霊を求める祈り

朗読聖書①エレミヤ書3:6-13

◆悔い改めの呼びかけ

06 ヨシヤ王の時代に、主はわたしに言われた。あなたは背信の女イスラエルのしたことを見たか。彼女は高い山の上、茂る木の下どこにでも行って淫行にふけた。

07 彼女がこのようなことをしたあとにもなお、わたしは言った。「わたしに立ち帰れ」と。しかし、彼女は立ち帰らなかった。その姉妹である裏切りの女ユダはそれを見た。

08 背信の女イスラエルが姦淫したのを見て、わたしは彼女を離れし、離縁状を渡した。しかし、裏切りの女であるその姉妹ユダは恐れるどころか、その淫行を続けた。

09 彼女は軽薄にも淫行を繰り返して地を汚し、また石や木と姦淫している。

10 そればかりでなく、その姉妹である裏切りの女ユダは真心からわたしに立ち帰ろうとせず、偽っているだけだ、と主は言われる。

11 主はわたしに言われる。裏切りの女ユダに比べれば、背信の女イスラエルは正しかった。

12 行け、これらの言葉をもって北に呼びかけよ。背信の女イスラエルよ、立ち帰れと/主は言われる。わたしはお前に怒りの顔を向けない。わたしは慈しみ深く/とこしえに怒り続ける者ではないと/主は言われる。

13 ただ、お前の犯した罪を認めよ。お前は、お前の主なる神に背き/どこにでも茂る木があれば、その下で/他國の男たちと乱れた行いをし/わたしの声に聞き従わなかったと/主は言われる。

朗読聖書②マタイによる福音書5:27-32

◆姦淫してはならない

27 「あなたがたも聞いておられ、『姦淫するな』と命じられている。

28 しかし、わたしは言うておく。みだらな思いで他人の妻を見る者はだれでも、既に心の中でその女を犯したのである。

29 もし、右の目があなたをつまずかせるなら、えぐり出して捨ててしまいなさい。体の一部がなくなっても、全身が地獄に投げ込まれない方がましである。

30 もし、右の手があなたをつまずかせるなら、切り取って捨ててしまいなさい。体の一部がなくなっても、全身が地獄に落ちない方がましである。」

◆離縁してはならない

31 「『妻を離縁する者は、離縁状を渡せ』と命じられている。

32 しかし、わたしは言うておく。不法な結婚でもないのに妻を離縁する者はだれでも、その女に姦通の罪を犯させることになる。離縁された女を妻にする者も、姦通の罪を犯すことになる。」

祈祷

真理の御言葉と御霊とをもって養い導いてくださる主イエス・キリストの父なる御神さま、聖名を褒め称えます。

新たな月日と共に季節の節目を迎え、神の息吹によって赦し与えられて此処に呼び集められていることを深く感謝致します。

正しき道を備え給う父なる御神さま、私たちを御業の真理によって、御子イエスと結び合わせ、御子の御復活の命によって真摯にあなたに仕え得る者と為さしめてください。

先週には信仰の友を天にお送りいたしました。主の御許で、なお天上の礼拝者として連なるこの兄弟の上に、主と共に居られますように。また残された御遺族、御関係の方々の上に主の特別なる慰めと御顧みがありますように。

その中で私たちは、共にキリストの命にある希望に生かされている今でもあります。弱きに力を与えてくださる主に感謝致します。主は私たちに大いなる使命を与えてくださいました。それはどの様な課題多き混乱を伴う中でも、信仰によって御国への約束の道を歩み続けます。主は私たちが安息の時へと導き、御自分の子として真理の内に招き入れ、神の下にあって平安を与えてくださいます。そして全人類の中に、新たな霊と命が永遠に亘りあなたに仕える新しい力となる望みを与えられています。全ては神の備えられた中にあって最善の働きとなることを願わずにはおられません。

しかし、その願いにありつつも、思い起す日々は主の御心から遠くあったことも覚えます。今より後も神の思いを心深く留めるべく、改めてここに悔い改めを申し上げます。どうか御前に立つに相応しい者となるべく、主の御救いの内にありますように。

真の道に備えられている全世界のキリストの教会は、恵みの御言葉に聴き従い、真理の道を辿り、証しするべく主なる神の御霊の力を受けています。全ては主なる神の慈しみ深き愛により、たとえ苦難、また艱難にあっても、真理の御言葉に従い、確かな信仰に生きる者でありますように。また主が、御霊をもって共に居られ、私たち一人ひとりが、この世の出来事に打ち勝ち、弱さを克服するべく、福音の真理に伴い御心に適う者となりますように。また今日ライブ配信により、この時を覚え、祈りを共に献げている友のことも覚えます。共に真の生ける神を拝し、御光の内に歩む者とされますように。

主に招かれた私たちは、どのような時にあっても、御心を求め、世界の平和と日本の平和のためにも祈ります。日々の営みは、世界を脅かす戦乱、また混乱、人の思いにある破壊行為に押し潰されそうですけれども、この世界に主の平安と慰め、また祝福がありますように。共に主を見上げ、主の平和に生きる者となりますように。

なお福音宣教の闘いが続きます。これより語られる御言葉が、主の御霊の導きを豊かに受け、御声が私たちの心に深く備えられますように。また、新たな一歩を進むべく、ここから遣わされて行きますように。

主の御国を待ち望みつつ祈る諸教会の祈り、主の平和を祈り願う信仰の友の祈りと共に、尊き主イエス・キリストの聖名によって御前にお献げ致します。アーメン。

讚美歌 430「とびらの外に」

説教: 「心の中を問う」

佃 雅之

『マタイによる福音書』に書き記されています『山上の説教』の舞台となっているのは、イスラエル北部のガリラヤ湖を一望できる小高い丘の上です。キリストの福音を聴いて弟子となった者たち、更に、従って来た多くの人々がキリストを囲んで座っています。今朝の私たちと同じように礼拝をして

いると考えてよいでしょう。

山上に上られ腰を下ろされたキリストは、ご自分の使命について、「わたしは来たのは律法や預言者を廃止するためだ、と思ってはならない。廃止するためではなく、完成するためである。」(5:17)と語られました。そして今日の個所の少し前、5:20でこう言われます。「言っておくが、あなたがたの義が律法学者やファリサイ派の人々の義にまさっていなければ、あなたがたは決して天の国に入ることができない。」私たちは、どのように生きたなら律法学者やファリサイ派の義に勝ることが出来るのか、その具体的な生き方が前回読みました 21 節以下で語られていた“兄弟に腹を立ててはならない”という教えでした。律法の完成者としてこの地上に来られたキリストは、神がモーセにお与えになった十戒の第 6 戒にあたる“殺してはならない”という戒めを、更に一步踏み込んで、兄弟に腹を立てること、悪口を言うことも禁じられました。“あんな人、居なければいいと思ったら、もうあなたはその人を殺していることになる。あなたの怒り、軽蔑、悪口は人殺しと何ら変わらない。それは審きに値する。”ということでした。私たちの神は外側に顕れた人の行為をご覧にはならない、人の内面、心を見るのだということです。キリストによれば人間の罪は、先ず心の中で起きるものなのです。

今日朗読された箇所はその続きです。キリストは十戒の第 7 番目の戒めである『姦淫するな』という戒めを取り上げます。「姦淫」あるいは「不倫」ということが結婚生活を脅かすものであることは言うまでもないことでしょう。“神が人間を男と女に創造されたのは、人間というものが違いを持った存在として互いに愛し合って生きる者である”ことを意味しています。創世記に記された神の創造の業を土台として考えるなら、今日の個所でキリストが教えようとされています「姦淫の禁止」は、神が創造された人間の最も深い愛の交わりを破壊するものであるからでしょう。例えば私たちが、肉の欲に自分を支配されてしまうようなことがあるなら、私たちは人間本来の在り方を失っていくことになっていきます。キリストは姦淫について、「みだらな思いで他人の妻を見る者はだれでも、既に心の中でその女を犯したのである。」(5:28)とされています。「みだらな思い」(ἐπιθυμέω)という言葉は、「貪る」、あるいは「欲しがる」ことを意味する言葉です。私たちは、人の物を欲しがることがあります。現実には姦淫はしていない、行動にまでは至っていない人が大半です。しかし、心の中はどうでしょう。人の物を欲しがるといえることはないでしょうか。人間にはいろいろな欲があります。しかし“その欲に自分を支配させるな”ということ。様々な欲望に支配されてしまったときに私たちは、神が望まれた人間としてあるべき生き方を保つことが出来なくなってしまうからです。欲に支配された人間は自分をも、他者をも破壊していきます。今、中東で戦火が拡大し、激化しています。この事も欲に支配された人間の弱さや罪と無関係ではないでしょう。結果は誰もが知っている通りです。命を失う、命を奪うことになります。欲は、或る時暴走して留まるところを知らない、歯止めが利かなくなるといえることが起こり得ます。そのことをキリストは「みだらな思い」と語りました。過ちは人間の心の中から全て始まるものです。私たちの心の中に潜んでいる、あるいは入り込む、その思いに人間の罪、弱さがあるに違いありません。私たちは何時も誘惑に曝されているものであります。今日の礼拝で私たちは共に『罪の告白、赦し』を祈りました。告白文の中に『私たちの罪は常に私たちの前に置かれています。』と、言葉がありました。“悔い改めの詩編”と言われる 51 篇からの御言葉です。私たちは何時も罪に待ち伏せをされています。山上から語り掛けるキリストの言葉は、常に私たち

の日常を鋭く捉えているのです。

29 節以下の言葉は非常に厳しいものです。「もし、右の目があなたをつまづかせるなら、えぐり出して捨ててしえ。もし、右の手があなたをつまづかせるなら、その右の手を切り取って捨ててしまえ。」この言葉を文字通りに受け取れば、キリストの弟子たちは、右の目のない人、右手のない人がほとんどということになるはず。しかしこれは所謂『誇張法』です。わざと誇張して極端な言い方をされています。先ほども言いましたが、私たちは何時も罪に待ち伏せをされています。罪に触れられているのです。それでも私たちは罪に支配されてはなりません。心の中に侵入しようとする罪を防がなければなりません。罪というものは、先ず私たちの「目」から入ってきます。何かを見て“いなあ、欲しいなあ、” 見ていると「欲望」(ἐπιθυμία)が膨れ上がり止まらなくなる。罪に支配されて生きる道への入口が「目」です。「手」は目から入ってきたその欲望を実行する道具になります。手によって人間は欲望、罪を具体化していきます。目から入ってきた欲望に私たちの心が支配されたときに、手の働きでそれを手に入れようとしていきます。そのためにキリストは“捨ててしまえ” “切り取ってしまえ” と、極端な表現を使っておられるわけです。

ここでキリストが言われたことは明らかです。私たちの目や手足が悪いわけではありません。繰り返しますが、神が見ておられるのは私たちに心です。“私たちの心の中から躓きになるもの、私たちが罪を犯すきっかけとなるものを断固として取り除くように”とされているのです。

ところが、躓きの原因を取り除くことは決して容易なことではありません。魅力的で、“これだけは取っておきたい、これだけは手放したくない”と思うようなものだからです。私たちはしばしば口実をつけて手離すことを先延ばしにするでしょう。だからこそキリストは“直ちに捨てるように”と言われるのです。躓きの原因となるものを取り除かなければならないのは、私たちの命を守るためです。命というのは、今、与えられています地上での命のことだけではありません。「体の一部がなくなっても、全身が地獄に落ちない方がましである。」(29 節 b、30 節 b)とされているからです。私たちが躓きの原因となるものを徹底的に、断固として捨ててしまわなければならないのは、永遠の命というものがあからずからです。欲望に支配されず、誘惑の種を取り除くことには大きなエネルギーが必要になるでしょう。しかし私たちの日常はどうでしょうか。私たちは人生を良いものとするために、多くのエネルギーを注いでいます。例えば、沢山のお金をかけて子供に教育を施し、少しでも幸せな人生を、選択肢の多い人生を得させようとするでしょう。保険や預金、財産の運用も積極的に考えてもしもの時に備えています。ところが、永遠の命への備えは驚くほど無頓着なのではないでしょうか。

私たちは、いずれ必ず終わりの日を迎えます。その時、必ず、神の審きの前に立つこととなります。神の審きの前に立たされたとき、私たちは“地獄に投げ入れられないような生き方をしてきたのか”、その心の在り方、魂の持ち方を問われます。“心から神の言葉に聴き従って来たのか、最後の審きの時、あなたの心が、本当は何を思い、何を考え、何を信じ、何を頼りとしてきたか”を問われます。“心から神を信じ、人を愛して生きて来たか”が問題になります。この事に私たちは気付いているでしょうか！「姦淫するな」というキリストの言葉は、隣人への愛を通して、私たち自身の命を守ることを教えているのであります。

キリストは『姦淫してはならない』に続き、『離縁してはならない』と教えられます。これがファリサイ派の人たちの義に勝つための 3 番目の教えです。離縁状に関わることは旧約聖書の申命記 24 章に記されています。「人が妻を

めとり、その夫となつてから、妻に何か恥ずべきことを見だし、気に入らなくなったときは、離縁状を書いて彼女の手渡し、家を去らせる。」(24:1)と書かれています。当時は男性優位の社会です。旧約聖書の時代、離婚は夫の権利であつて妻の側から申し立てることは出来ませんでした。当時のユダヤ教の教師の中には、“鍋を壊したことが離縁状を渡す理由になる”と教えた人もいます。どのようなことも離婚する理由になるのです。結婚生活が危機に陥る理由は色々あるでしょう。“別れたい、別れるべきだ”、そう考えるに至る理由があるものです。キリストはここで、女性の権利に関心を寄せておられます。けれどもキリストが私たちに伝えたいことは、男性の側からの身勝手な離縁を禁止し、女性の権利を守ろうとしているだけではありません。もっと深刻なことです。「不法な結婚でもないのに妻を離縁する者はだれでも、その女に姦通の罪を犯させることになる。」更に、「離縁された女を妻にする者も、姦通の罪を犯させたことになる。」と言われているからです。男性の身勝手な罪が、離縁した女性に、更に、その女性の再婚相手にまで及ぶのです。つまり、罪の恐ろしさというものは、“罪は連鎖する、罪が伝染する”ことにあります。

今日は、共に『エレミヤ書』を読みました。預言者は神とイスラエルの民の関係を結婚生活に譬えて語っています。イスラエルは度々、自分たちを愛してくださる神を捨てて、異教の神々を拝みました。そのことを預言者は「姦淫(ニクフ 𐤍𐤏𐤍)」と言っています。しかし、ここで問題となっているのは、「イスラエル」のことよりも、その「姉妹ユダ」のことです。8節の後半をもう一度お読みします。

しかし、裏切りの女であるその姉妹ユダは恐れるどころか、その淫行を続けた。」「その姉妹である裏切りの女ユダは真心からわたしに立ち帰ろうとせず、偽っているだけだ、と主は言われる。

“イスラエルの滅亡を知っていても学ぼうとせず、わたしに立ち帰らない”、つまり“悔い改めようとしぬユダはもっと問題だ”と言うのです。

罪の恐ろしいところは、自分一人では済まないということです。関わる人たちにもその害が及びます。姦淫はその最たるものなのです。

しかし、全ての罪に関して同じことを言うこともできます。罪の誘惑に私たちの心はいとも簡単になびくからです。そうならないために私たちは山上から語り掛けてくださるキリストの言葉を、自分のこととしてしっかり聞かなければなりません。神に創造され、与えられた自分自身を守るために、自分の心を守るために、魂と命を守るために、自分の大切な人たちの心と魂と命を守るためにです。本当の問題は、“愛は何か”ということでしょう。“神を愛するとはどういうことであるのか、隣人を愛するとはどういうことなのか”、という問題です。キリストは山上で、律法を語っているのではなく福音を語っておられます。キリストは『山上の説教』によって、私たちを救おうとされています。

今日の礼拝は、世界聖餐日を覚えて献げられています。私たちはキリストの流された血潮を戴きます。私たちのために十字架で流されたキリストの血潮が私たちを罪の誘惑から守り、主なる神以外には支配されない者としてくださいます。聖餐の恵みによって御言葉が私たちの心に宿ります。この朝も、御言葉と聖餐によって信仰を篤くして戴きたいと願う者であります。

お祈りを致します。

聖なる神、あなたが、御言葉によって私たちを支配してくださっている

ことを心から感謝します。どうか私たちが御言葉に聴き従い、聖霊の執り成しによってキリストの弟子として相応しく生きることが出来ますように。祈り合い、仕え合い、支え合い、一つとなつて、キリストを仰ぎ見ることが出来ますように。

これから聖餐を共に祝います。キリストの命を戴いて、聖霊の働きによって私たちが新しい命に生きることが出来ますように。救いの歓びを確かにする事が出来るようにしてください。

主の聖名によって祈ります。アーメン。

讃美歌:492「み神をたたえるこころこそは」

聖晚餐 使徒信条の告白 和解の挨拶

讃美歌:78「わが主よ、ここに集い」

献金・感謝(中川真明)・主の祈り(讃美歌21 93-5A)

天の父なる神さま、あなたの偉大な聖名を賛美致します。どうぞ御国を来たらしてくださいように。

聖霊降臨第21主日、そして世界聖餐日、世界宣教の日のこの主日の朝、私たち一人ひとりの名前を呼んで教会へと集めてくださり、またライブ配信を通して神さまに礼拝をお献げすることが出来ましたこと、心より感謝申し上げます。

佃牧師を通して御言葉を戴くことが出来ました。私たち、神さまを愛し、また隣人を愛し、悔い改めて、夫々の歩みを為していくことが出来ますように、上よりのお導きをお願い致します。どうか一人ひとりの命が大切にされますように。私たちが平和を実現する者として、夫々の場において歩んで行くことができますようにお導きをお願い致します。

今日は、聖餐に与ることが出来ましたことを心より感謝申し上げます。新たな気持ちをもってこの歩みを為していくことができますように。

私たちは神さまから沢山の恵みを戴いております。その一部を、今、献身の徴として此処にお献げ致します。どうか、神さまの御国のために生かされますようにお導きをお願い致します。

主イエスさまが私たちに教えてくださった、「主の祈り」を共に祈って、新しい巡りの時を始めることが出来ますように。「主の祈り」…アーメン。

派遣:讃美歌92「主よ、わたしたちの主よ」

派遣と祝福 司式:主は言われます。「私は誰を遣わすべきか。会衆:私がここにおります。私をお遣わし下さい。司式:「父が私をお遣わしになったように、私もあなた方を遣わす」と主は言われる。キリストの平和の使者として行きなさい。>

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にあるように。アーメン。

報告:週報訂正「教会学校説教者:高橋真軌を綿引道子に。

後奏:「イエス・キリスト、我らの救い主、我らより神の怒りをのぞき給いし」(H.シャイデマン)